

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 8 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	①介護計画のサービス内容の項目が多く、援助内容に対応する個別記録が希薄である。 ②ケアマネのみが利用者様の介護計画を立案し、介護計画に対する各職員の関与が少ない。	①介護計画のサービス内容を絞り込み、援助内容を明確にしていく。 ②各職員が援助内容を明確に意識してケアにあたり、記録、その他一連の過程の把握を通じて次の介護計画を立案していく。	①本人の思い等を再確認しながら、必要により介護計画のサービス内容の見直しをする。 ②個別記録様式の見直しを行い、サービス内容と個別記録が明確に対応できるようにする。 ③モニタリング様式、カンファレンス様式の見直しを行い、各職員が介護計画の立案に深く関わられるようにする。	12ヶ月
2	40	①要介助者が多くて職員が利用者様と一緒に食事を摂れていないため、食事を楽しむ支援ができていない。 ②食事、その他の生活の場面で、利用者様の役割が少ない。	①食事の時間を通じ、利用者様がより楽しく食事が摂れるようにしていく。 ②食事の時間、その他生活の場面を通じ、利用者様にそれぞれ役割を担っていただき、楽しみや生きがいを持って過ごしていただく。 ③利用者様がそれぞれ役割を担い、共に意見を出し合いながら生活を育んでいく。	①一緒に食事を摂れる職員数を増やし、献立内容や季節の推移、行事、昔の思い出などの多くの会話も交え、楽しい食事の時間とする。 ②利用者様の残存機能を活かし、生活の場面を通じて利用者様との多くの会話も交え、利用者様お一人おひとりに合わせた役割を一つでも多く見出す。 ③食事の献立検討やケア内容等多くの生活の場面を通じて利用者様との多くの会話も交え、ご希望を更に引き出したり、決定していただく機会を増やす。	6ヶ月
3	2	①グループホームと地域との交流が、まだ希薄である。 ②利用者様と近隣との交流が、限られた行事程度で、普段の生活では希薄である。	①地域との交流の機会を積極的に活用していく。 ②地域の方々と利用者様が顔見知りとなり、地域との交流を深めていく。	①隣組の「回覧板」を事業所へ回していただき、地域の出来事を知る機会や交流のきっかけづくりをしていく。 ②事業所の敷地内の散歩だけでなく、近隣の田んぼや畑などへも積極的に出かけ、利用者様と地域の方が顔見知りになったり、会話したりする機会をつくっていく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。